

平成30年の平和宣言に関する懇談会の開催結果について（概要）

1 第1回目〔5月22日（火）〕

最初に座長である松井市長から、世界の人々が、核兵器廃絶に取り組む際の原動力となる信念を固めるために必要な行動理念を提示する考えなどを説明した。その後、今年の平和宣言で触れる内容について議論した。

主な意見は次のとおり。

【平和宣言で触れる内容について】

(1) 被爆の実相

- ・ 被爆の実相が何より重要であり、一人一人の顔が伝わるような内容となるよう留意してほしい。
- ・ 被爆直後の様々な惨状を知らせることも重要だが、被爆者の後障害などもしっかりと伝えなければならない。

(2) 世界の為政者・国際社会の状況

- ・ 自分たちさえ良ければよいという考え方を正すことが重要な局面なのではないか。
- ・ 対立が深まった時にも、立場の違いを乗り越えて対話することを通じて、予防・解決を図るといった前例があったことを頭に入れて宣言を書いてはどうか。

(3) 市民社会

- ・ 多様性を尊重しないと物事は解決しない。
- ・ 市民が指導者をどのように動かしていくか、影響を与えるかといった視点が重要になってくる。
- ・ 「ヒロシマ」を発信し続けることが何よりも重要ではないか。

2 第2回目〔6月17日（日）〕

第1回目の懇談会での議論を踏まえ、平和宣言の骨子案を提示し、今年の平和宣言の構成及び内容について議論した。

主な意見は次のとおり。

【平和宣言の骨子について】

- (1) 被爆の実相に関して、生き延びた被爆者の方が長期にわたって苦しんでいるということがしっかり伝わる表現にしてはどうか。また、当事者が少なくなっていく

中で、どうやって語り継いでいくかということが大きな課題となっており、その部分を考慮した書き方としてほしい。

- (2) 宣言を聞く人、読む人の立場で、訴えている内容が「そうだな」と受け止めてもらえるように工夫する必要がある。例えば、被爆の実相について、身近な生活に関連していることを意識してもらえるような説明の仕方をしてはどうか。
- (3) 北朝鮮関係に関して、対立ではなく、信頼をベースにしたやり取りの中で関係を構築していくことが重要だと言及してはどうか。
- (4) ICAN のノーベル平和賞受賞に関して、世界の人々が被爆者の声に耳を傾ける機会になったことに触れてはどうか。
- (5) 命を大事にするという考えが何にもまして重要であるということを、多くの人が受け止められるような内容にしてはどうか。

3 第3回目〔7月13日（金）〕

第2回目までの議論を踏まえた文案を提示し、それに基づき、字句の修正を含めて議論を行った。また、今年の平和宣言で提示する行動理念を「理性」と「継続」とすることで出席者に賛同を得た。

主な意見は次のとおり。

【平和宣言文案に対する出席者からの意見】

- (1) これまでの出席者からの意見が簡潔にまとめられている。
- (2) 被爆の実相部分について、当時の惨状が伝わる内容になっている。
- (3) 被爆者の思いが随所にちりばめられている。